

外国人観光客に おもてなしの心をPR



福袋をもらってにっこり

成田や周辺地域の活性化を目指して、成田青年会議所、成田商工会議所、成田空港会社や市のメンバーたちが「成田空援隊」を結成。その活動の第一弾として7月30日、観光館で地元和菓子などを詰めた福袋を外国人観光客に配りました。集まった外国人観光客は、福袋をもらうとみんな笑顔に。成田空援隊のメンバーたちも会話を楽しみながら、成田の魅力とおもてなしの心をPRしました。福袋を受け取った女性は、「日本に来てこのような歓迎を受けたことは、きっと忘れないでしょう」と語っていました。成田空援隊は今後もロケ誘致や観光客向けのイベントを通して、成田の魅力を発信していくことです。



「ありがとう」と手を振る外国人観光客



せんべいやタオルなど盛りだくさん

千葉国体・植える花夢フラワー成田

花のあふれる会場へ 植える花夢 ウェルカム

国体会場を花で飾ろうと、なりた花の会などが中心となって「千葉国体・植える花夢フラワー成田」が結成され、市内各地でプランターへの植栽などが進められています。豊住地区のメンバーは、地区住民が中心。8月10日には、30人が参加してサルビアとマリーゴールドを255個のプランターに植えました。参加者は「ソフトボール競技会場になる北羽鳥多目的広場を、花でいっぱいになりたい」とやる気満々。豊住地区では、このほかにも北羽鳥多目的広場の花壇の造成などを行っています。



猛暑にもかかわらず作業に精を出す地区住民たち

麻賀多神社例大祭

市指定無形民俗文化財の神楽を奉納



田園地帯を練り歩く神輿

台方・下方地区の夏の風物詩「麻賀多神社例大祭」が8月1日、麻賀多神社で行われました。麻賀多神社本殿で行われる例大祭を皮切りに、神輿を中心にした衣装も鮮やかな長蛇の一行が印旛沼畔の鳥居河岸に向けて練り歩きました。鳥居河岸付近に設けられたお祭り広場では、市指定無形民俗文化財である神楽が奉納され、獅子舞やひょっとこ踊りの力強く威勢のいい舞に、惜しめない拍手が送られていました。



雌獅子の華麗な舞

淡水魚介類稚魚放流事業

フナやウナギを印旛沼に

印旛沼の水生动植物の繁殖を目的に7月30日、印旛沼漁業協同組合による稚魚の放流が行われました。魚介類の稚魚などの放流の歴史は古く、昭和30年代の前半には行われていました。4月20日には、北印旛沼に諏訪湖産のワカサギが300万粒、西印旛沼に網走産のワカサギが2,000万粒放流されており、今回の放流はフナが500Kg、ウナギが300Kg。11月には、2回目のフナの放流が予定されています。



甚兵衛渡し付近で稚魚の放流。ここから獲れた天然ウナギを食べられるかも

折り鶴平和プロジェクト

15万1千羽を広島・長崎へ

市民の平和への願いが込められた折り鶴を被爆地へ届ける「折り鶴平和プロジェクト」の千羽鶴出発式が8月5日、市役所で行われました。6月からの



出席者全員で箱詰め

2カ月間で集まった折り鶴は、市の人口を大きく上回る15万1千羽。延べ253人のボランティアがこれを千羽鶴にまとめました。出発式に出席したボランティアやつのぶえ保育園の園児たちの手で27個の段ボール箱に詰められた千羽鶴は、運送を無償で引き受けたヤマト運輸(株)成田支店の配送車で広島市と長崎市に届けられました。

成田寺子屋

親子のきずなを再確認

さまざまな共同作業を通して、親子のきずなを深めてもらおうと、「成田寺子屋」が8月7日、宗吾霊堂で行われました。参加したのは16組38人の親子。流しそうめんやスイカ割り、竹馬作りなどにチャレンジしました。



市民かるたにも挑戦

竹を使った慣れない作業に苦労しながらも、親子で協力して作ったそうめん台で食べる流しそうめんの味は格別だったようで、子どもたちは「おなかいっぱい」と言いながらも、「もっとそうめんを流してください」と、一風変わった昼食を楽しんでいました。



そうめんと一緒に流れるフルーツに大はしゃぎ